

河野談話とは？

この問題は、平成4年に日本の大手新聞社より、「軍の関与を示す資料発見」という見出しで記事が掲載されたことから始まりました。その内容を要約すると、く1930年代、中国で日本軍兵士による強姦事件が多発したため、反日感情を抑えるのと性病を防ぐために慰安所を設けました。軍医や元軍人などの証言によると、開設当初から約8割は朝鮮人女性だったと言われ、太平洋戦争に入ると女性を挺身隊の名で強制連行した。その数は8万とも20万ともいわれる」という何の根拠も無い無責任なものでした。

そして、この記事を元に韓国の新聞社が日本の戦時中に出された「女子挺身勤労令」を法令集から都合のいいように解釈して、「従軍慰安婦として連行された」と報じたことがきっかけであり、平成5年にその後の調査結果で何の具体的事例も証拠も示さないまま「総じて一定の強制性があった」と公表したことによって嘘が誠に変わってしまい、取り返しのつかない禍根を残すことになってしまいました。これが世に言ういわゆる**河野談話**です。

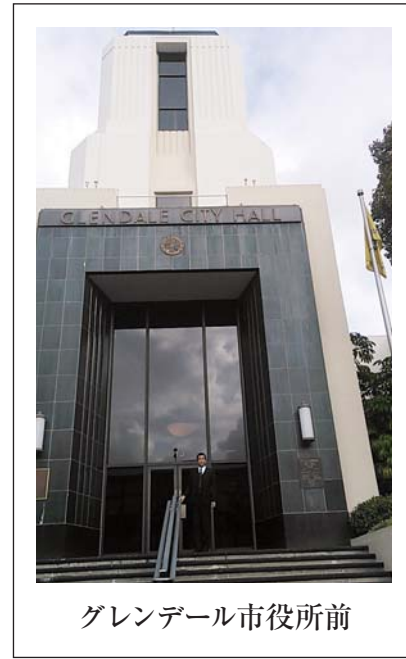
当初、この問題を表出したのも日本人ですが、利用すれば思わぬ利益が得られると判断した韓国政府は、日本に慰安婦強制連行を認めさせようとし、日本がこれを認めることで国際的な地位を落として、逆に韓国に同情が集まり、それを元にして補償を取り付けるという策です。

結果的には「強制性」を認めたことで韓国の狙い通りに事が運んでしまったことがこの問題の本質です。

抗議と提案

今回の渡米の目的は、グレンデール市に抗議(3件)を含めた今後の提案文(3件)を渡すことと現地で活動されている方々(TJN: True Japan Network)との意見交換による情報の収集です。抗議の内容は以下の3件です。

1. 慰安婦彫像と碑文の設置が提案者側の一方的な、説明のみに基づいて、行われました。提案者側の説には、事実と違反し、歪曲され、かつ全く検証されていません。記念碑が“私は、日本軍の全く自由の無い性奴隷でしたとか、20万人以上の性奴隷のために…”など、捏造された説に基づいて設置されました。
2. 慰安婦問題は、日本、韓国間で大変意見の対立した問題です。このような重要な決定が事実の解明を行うことなく、なされては断じてなりません。さらに言うならば、このような国際的な政治的問題に一地方自治体が関与することは、連邦憲法2条で許されていないと理解します。
3. 貴市の2013年7月9日議会の改正議題説明書にある。6姉妹都市のそれぞれが中央公園の再開発に賛同した。さらに慰安婦像の維持費負担に同意したなる記述は虚偽です。東大阪市は同意しておりませんし、相談も受けておりません。このような記述は信頼関係を重んじるべき、姉妹都市間の信義にもとる行為と考えます。



グレンデール市役所前

そして、提案の内容は以下の3件です。

1. グレンデール市と東大阪市は共に慰安婦問題の歴史認識の検討と検証をゼロから始め、歪曲のない客観的な事実とその証拠を得るため努力を尽くす。客観的な事実が、慰安婦像および、そこに記載されている文面に相違していることが明らかになり確認されたら直ちにグレンデール市はそれを修正する。
2. 半世紀以上にわたり培ってきた、貴市との友好的姉妹都市関係をさらに発展させる、様々な具体的な方法を共に見出す努力をする。
3. 上記2つの重要な目的を遂行するために、委員会などを設置し定期的に具体的な、解決策を求める努力をする。委員は定期的に会合を開く。

15日11:00から職員D, Bill氏に面会のアポイントをとっておりました。20分ほど過ぎてから、ようやく私と通訳(目良氏)の2名が入室を許可され会談が始まりました(実際にはTJNのメンバーや報道関係者を含め10数名いました)

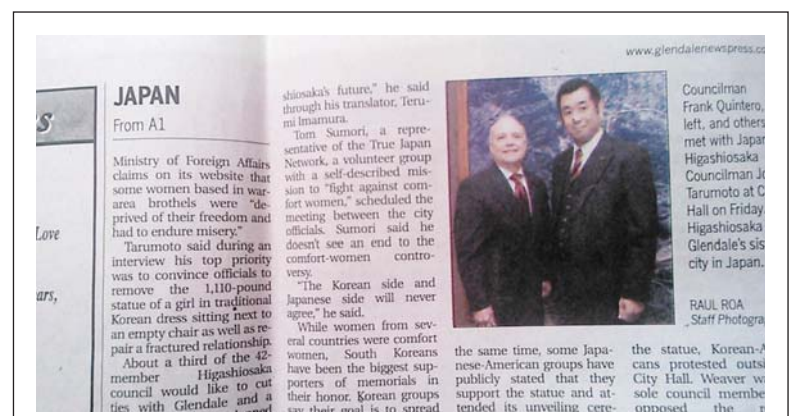
室内に入ると、F, J, Quintero氏(市議会議員)がおられ、続いてS, Ochoa氏(シティマネージャー)、L, Friedman氏(市議会議員)が来られました。

冒頭、まずはお互いの市議会の状況などを説明し、和やかな雰囲気でも過ごしながら、頃合を見てから抗議文を4名の方に手渡しました。目線が抗議文に移ると顔色が少し変化して、戦争についての認識を問われ、私は「国家間でお互いに色々な背景があり、悲劇であったということとを訴えつつ、両市の未来のために乗り越えて行かなければ」と主張しました。

抗議項目の1, 2については、2007年の下院決議や河野談話があることで承諾はされませんでした、3については訂正するとの事です。

提案の3項目については、市議会の皆さんと協議の上、回答しますとの事でした。

最後にロサンゼルスで有名な映画(ターミネーター)の台詞で、「I'll be back」と決めポーズをつけると理解され、室内に笑いが溢れました。約1時間の会談でした。



私とF, J, Quintero氏(市議会議員)会談室内での1枚



LA, Times系、翌日の地方紙で(1,4面に記事が掲載されました)